

招待発表 参加してきました！@前橋女子高校 SSH 公開発表会（1/28）



（大盛況です）



1年 新海 建実 君
『卵の表面積の測り方』



1年 大竹 俊輔 君
『手の皮膚の常在菌と石鹸による洗浄能力の関係』

◎参加した2人の感想

【新海くん】 今回この発表会で私は「卵の表面積の測り方」をテーマにして調査、発表した。1時間半という短い時間だったが入れかわり立ちかわりずっと女子の目の前で喋りっぱなしという異世界のような状況だったため肉体的・精神的に疲れた分、より多くの収穫があった。ポスターの内容的な部分や正確性など自分の至らなさを思い知らされた。特に気づかされたのは、説明能力の重要性やわかりやすさだった。3月の発表では内容を向上させるとともに、プレゼン力を高めていきたい。

【大竹くん】 前女での発表は高々とは違う環境だったが、緊張もせずに発表することができた。しかし、大学教授などにさまざまな改善点を言っていただけたので、今後活用していきたいと思う。

課題研究 I 成果発表会でまとめ

3月23日(木)の午後、課題研究 I の成果発表会が翠巒会館で行われた。今回の SSH では最初の年ということもあって、みな準備不足は否めなかったが、JST の関根康介先生、量子研の田中惇先生から温かい指導助言をいただいた。忙しい中、なんとか論文をまとめ、発表までこぎつけた努力が評価されたと感じたようだ。

【クラス代表と課題研究のテーマ】

- 1組 新海健実 君「卵の表面積の調べ方」
- 2組 高野 樹 君「効率よく素数を求めるアルゴリズム」
- 3組 塩月啓史 君「とろみのある液体は口に入れられる温度になるまでどのくらいかかるのか」
- 4組 伊藤成瞳 君「梅の抗菌効果について」
- 5組 金岡大遥 君「ミルククラウンを牛乳以外でより派手にする」
- 6組 大竹俊輔 君「皮膚常在菌と石鹸による洗浄能力の関係」
- 7組 和田洋輔 君「水を含む土の粒径と水の蒸発の関係」
- 8組 須川翔太 君「辛くないおろしわさびを作る」

1年間の活動で見えた課題

今年1年を振り返って、SSH活動はどうだったろう？ 生徒・保護者・職員のアンケートや評価、指導をお願いした大学や研究所の先生方の意見をもとに、今年1年を振り返って浮かび上がった課題を上げてみる。

(1) 生徒も職員も忙しすぎてノルマを達成するのに手一杯になっていた。

勉強をしたい時に SSH の課題をしなければならないなどの状況があった。

(2) 「全員参加」で先端科学を目指したために、中には文系の生徒で苦痛を感じる者もいた。

今回の SSH は前回(H14~H22)と異なり、「科学のエリート」を養成することがメインではない。地方の普通の学校で、いかに多くの生徒に「科学の考え方」や PDCA サイクルの活用法を身につけてもらえるかという「実験」である。新2年で SSH クラスにならなかった者も引き続き、自分なりのテーマ（自然科学に関わることでなくて良い）を見つけ、探求の姿勢を持ち続けて欲しい。新 SSH 元年の学年であることを忘れずに！

来年度はこう変える

上の課題に基づき、来年度の活動を下のように変える予定である。これも今年の1年生の活動の成果である。

(1) 事業のスリム化

H28年度

- ・ SP：素朴な疑問発見講座
- ・ SP：課題研究 I
- ・ SP：科学論文講座 I
- ・ SP：科学体験実践講座
- ・ セミナ：統計学基礎講座
- ・ SP：科学リテラシー研修&講座

H29年度

SP：課題研究 I (発表含む)

※しっかり時間を確保して納得のいく研究を！

SP：東北研修(科学リテラシー研修)

SP：科学リテラシー講座

(2) 高高の今までであった「特色となる教育」をサポートするための SSH へ

⇒「部活動」や「翠巒祭」「定期戦」も研究テーマとして可能にする。教員側のバックアップ体制も整える。

(3) 2年 SSH 課外企画に自由に参加でき、兼部も可能なスーパーサイエンス部を新設、モバイル会員を公募する予定